

やましん地域密着型金融推進計画

【平成20年4月～21年3月】



Nice days, Together!

大和信用金庫

はじめに



■ 「やましん地域密着型金融推進計画」について

当金庫では、これまでも平成15年4月からの「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」における各種取組みを始めとして、中小企業金融の円滑化・事業再生・経営力の強化・地域利用者の利便性向上等については、常日頃から取組みを進めています。

地域密着型金融の取組み状況につきましては、「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針（平成19年度版）」において、各金融機関に共通して取組みを求められているものですが、特に下記の3つの大項目があります。

地域密着型金融推進計画の3つの大項目

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化。
2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底。
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献。

ここでは、3つの大項目の内、当金庫が特に注力している項目についての取組状況をお知らせします。

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

(1) 経営改善支援

当金庫では、特に経営改善支援に力を注いでおり、平成15年7月には「財務支援室」設置し、取引先企業の経営改善支援業務を行っています。

【目的】

- ①取引先企業の活性化を図るための支援策策定。
- ②不良債権処理コストの低減を図るための健全債権化。
- ③不良債権の新規発生防止のための体制整備等を行うこと。

【取組内容】

- ・財務支援室と営業店との協議により、経営改善支援対象先を選定。
- ・支援対象先はその内容により、「支援室と営業店の共同支援先」と「営業店単独支援先」に区分し、主に「経営改善計画書」の策定に主眼を置いた活動を行う。
- ・「経営改善計画書」策定完了先については、定期的に進捗をフォローし(モニタリングの実施)、改善度合いを検証。
- ・営業店に対しては支援活動に対する積極的な取組みを促し、店舗表彰項目に採り入れることで取組姿勢の評価を行う。
- ・活動に際しては、再生支援協議会等、公的支援機関の機能も活用。
- ・職員のスキル向上の観点から、各種研修会へ継続的に派遣。
- ・取組みの実績について、ディスクロージャー誌等で公表するとともに公表内容の拡充を図る。
- ・平成20年度における新たな財務支援先3先を加えて、現在48先の支援活動を継続的に行っている。



1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

【成果】

- 過去5年間(15～20年度)における「経営改善計画書」策定件数は43先、債務者区分ランクアップ実績は19先となっています。
- 数字の実績以上に経営者の意識改革が図れたことが成果として大きいと思います。
- 平成20年度における「経営改善計画書」策定件数は12先(これには「第2次～3次策定先(計画書の更改先)」も含む)、債務者区分ランクアップ実績は3先となっています。

【評価及び課題】

上記の様に一定の成果があったとは言え、下記のような問題点も抱かえています。

- ① 支援中止先の発生、「経営改善計画書」策定期間長期化による活動の停滞。
- ② 営業店毎の活動姿勢に温度差があり、進捗や成果の足並みが揃っていない。
- ③ 「経営改善計画書」の策定以降、モニタリング活動が十分機能しておらず、経営者に対する経営改善取り組み姿勢の醸成が図られていない。

これらの問題点を踏まえ、以下のことが今後の課題としてしています。

- ① 多様な支援メニューによる課題解決型金融への取り組み
- ② モニタリング活動の充実
- ③ 営業店担当者への財務支援スキル醸成

経営改善支援等の取組実績

【20年4月～21年3月】

(単位: 先数)

(単位: %)

	期初 債務者数 A	うち 経営改善支援 取組み先数 α	αのうち期末に			経営改善支 援取組み率 α/A	ランクアッ プ率 β/α	再生計画 策定率 δ/α	
			債務者区分が β	債務者区分が γ	αのうち再生計 画を策定した先 δ				
正常先 ①	11,007	21		15	8	0.2%		38.1%	
要 注 意 先	うちその他 要注意先 ②	768	52	4	45	39	6.8%	7.7%	75.0%
	うち 要管理先 ③	14	0	0	0	0	0.0%	-	-
破綻懸念先 ④	138	10	0	10	4	7.2%	0.0%	40.0%	
実質破綻先 ⑤	88	1	0	1	1	1.1%	0.0%	100.0%	
破綻先 ⑥	20	0	0	0	0	0.0%	-	-	
小計 (②～⑥の計)	1,028	63	4	56	44	6.1%	6.3%	69.8%	
合計	12,035	84	4	71	52	0.7%	4.8%	61.9%	

(注)・期初債務者数及び債務者区分は20年4月初時点まで整理

- ・ 債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンなどのみの先も含む。
- ・ 経営改善支援取組み先の定義については、これまでと同様ですが、詳細については別紙「経営改善支援取組み先の定義について」を参照。
- ・ βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載。なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαに含めるもののβに含めない。
- ・ 期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含める。
- ・ 期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理すること。・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めない。
- ・ γには、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載。
- ・ みなし正常先については正常先の債務者数に計上すること。
- ・ 「再生計画を策定した先数δ」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化 (その他の項目)

(2) 事業再生について

中小企業再生支援協議会との連携により、案件発生時にはその活用を行うこととしています。
平成20年度においては、1先の再生計画策定を行いました。

(3) 創業・新事業支援について

平成20年度中における創業・新事業支援関連の融資実績

6件 37百万円

内訳：保証協会付新規開業支援資金	1件	15百万円
保証協会付創業関連保証資金	4件	17百万円
保証協会付新事業創出促進資金	1件	5百万円



(4) 事業継承について

事業継承につきましては、日常の営業活動において常に情報収集に努めながら、経営全般の相談・アドバイスをを行っています。

今後は、事業継承の問題はますます顕在化するものと思われることから、奈良県商工会連合会・奈良県中小企業団体中央会さらには近畿経済産業局などとも連携し、特に平成20年5月から進められている「地域力連携拠点事業」のスキームを活用し、事業継承には特に意識的に取り組んでいます。

2. 事業価値を見極める融資を始め中小企業に適した資金供給手法の徹底

担保・保証に過度に依存しない融資等への取組み

平成15年度からのリレーションシップバンキング機能強化計画のアクションプログラムにおいて求められていた、担保・保証に過度に依存しないよう意識した審査態勢及び取組姿勢の定着のために、新たな商品開発を行い「やましんビジネスローン『社長！どうですか』」として発売・推進したほか、顧客利便性に資するため、各種融資商品の開発・推進を行っています。

【やましんビジネスローン「社長！どうですか」の実績】

平成16年12月より取扱を開始し、平成20年度中は40件の137百万円の新規取組み実績であり、発売以来の累計では、840件、2,621百万円となっています。（21年3月末時点での実行残高は、393件、601百万円。）

【格付活用融資（財務諸表の精度が相対的に高い中小企業に対する融資商品として、信用格付制度を活用し、格付により上限金額と下限金利をマトリックスで決定する商品）】

平成19年度より取扱を開始し、20年度では15件の223百万円の取組み実績となりました。
21年3月末での累計残高は、49件の1,029百万円となっています。

【当座貸越商品やましんコミットメントライン】

平成19年度より取扱いを開始し、現在2件600百万円の枠取りを行っています。

【売掛債権担保融資】

売掛債権を担保とした融資として、平成20年度は3件、29百万円の実績がありました。

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

— 地域の活性化につながる多様なサービスの提供として —

「大和川水質改善応援定期預金「大和川定期預金」の取扱い及び大和川の水質改善への取組み」

当金庫では、平成16年12月に「CSR検討委員会」を設置し、CSR(企業の社会的責任)を如何に実践していくかを議論し、活動を進めてきました。

・CSR活動のテーマ

『Next Generation ~未来へ~』 次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。

古都・奈良を事業地域とする当金庫が「持続的発展が可能な地域社会づくり」に貢献するという社会的責任を果たすために、地域の歴史と環境と子供たちを大切にすることを活動の柱にしたいとの思いがあります。

・これまでの活動内容 ⇒ のクールビズ・ウォームビズ、ハイブリッドカーの導入、低公害車購入への金利優遇ローン、少子化対策・子育て支援のための商品「ANGEL PLUS ONE」、「こども110番」活動、護身術セミナーの開催、小学生への金融教育、介護支援、AEDの全店設置、「認知症サポーター養成講座」の受講、エコ検定の受検、奈良県ストップ温暖化推進委員の委嘱、マラソン大会への協賛、清掃活動など。

当金庫のCSRテーマに則り、開発されたのが「大和川定期預金」です。

■ 「大和川定期預金」商品内容

・BOD値の改善度合いによって、定期預金の金利を上乗せ

(平成20年の場合＝平成19年のBOD値4.7mg/ℓを基準として)

BOD値が3.4 mg/ℓ 以下に改善した場合 ⇒ 1.0%上乗せ

BOD値が4.3 mg/ℓ 以下に改善した場合 ⇒ 0.5%上乗せ

BOD値が4.6 mg/ℓ 以下に改善した場合 ⇒ 0.3%上乗せ

・粗品は「水切りネット」

地元企業の製品であり、「2006年 奈良・グッドデザイン
人にやさしいデザイン賞」受賞商品を採用

■ 定期預金の推進に際して

・趣旨説明の上、各家庭での生活排水削減を呼び掛けました。

- ①食事は食べる分量だけ作り、残らないようにする。
- ②食器やフライパンなどの汚れは拭き取ってから洗う。
- ③食べ残しや残りクズは流さず三角コーナーかゴミ箱へ入れる。等

■ 平成20年の結果

・平成20年のBOD値が3.7mg/ℓと観測史上最もきれいな水質まで改善し、定期預金は0.5%の金利上乗せを実現。



大和川定期預金の反響と成果

■ マスコミでの紹介

- ・発売当初から、新聞各紙をはじめ、テレビやラジオ等のマスメディアで紹介をいただきました。

■ 環境各賞の受賞について

- ・平成19年2月 フジサンケイグループ主催「第16回地球環境大賞〈フジサンケイビジネスアイ賞〉」
- ・平成19年3月 三重県主催「第5回日本環境経営大賞〈環境プロジェクト賞〉」



- ・平成19年6月 関西広域機構主催「平成18年度関西エコオフィス奨励賞」
- ・平成19年12月 日本フィランソロピー協会主催「第5回企業フィランソロピー大賞〈地域環境賞〉」
- ・平成20年4月 (社)日本河川協会主催 第10回日本水大賞〈奨励賞〉
- ・平成20年5月 第11回 信用金庫社会貢献賞〈特別賞〉
- ・平成20年6月 平成20年度 奈良県環境保全功労賞
- ・平成21年2月 第1回 経営者環境力大賞

その他の活動について

■ 「大和川基金」による大和川源流体験ツアー

- ・第2回大和川定期預金より「大和川基金」を組成
 - ⇒ 募集預金残高の0.01%を金庫から出捐 + 金庫役職員の自由意志による出捐
- ・大和川の再生・水環境の改善に向けた取組みに対して、資金を拠出
- ・奈良NPOセンターとの連携により、子どもたちを中心に大和川の源流体験ツアーを実施
 - その他、大和川水質改善啓発ポスターコンクール、大和川再生フォーラムを開催。
- ・今後も、大和川サミットのような啓発活動を通じて、大和川の再生を目指します。

大和川生活排水対策社会実験への協力

- ・1週間程度の社会実験期間を定め、その前後での水質の改善度を確認。
- ・各家庭での生活排水を抑えていただくよう呼びかけます。

■ 大和川クリーンキャンペーンへの参加

- ・地域の清掃活動に参加し、多くの職員が汗を流しました。

■ 大和川に係る各ネットワークへの参加

- ・行政と民間、奈良県（上流）と大阪府（下流）、企業と市民（NPO）、大学など、各分野間の連携を図るべく、市民が中心となって構築された「大和川市民ネットワーク」、及び奈良県が平城遷都1300年に向けて組成した「大和川清流復活ネットワーク」へ、共に当金庫が参画しています。

